

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所・小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	(株)アクティブ・ケア グループホームユニティー旭神 こはく館	評価実施年月日	平成19年11月1日(木)～20日(火)
評価実施構成員氏名	管理者 : 布重 計画作成担当者 : 寺林 介護職員 : 五十嵐 介護職員 : 藤澤 介護職員 : 柏川 介護職員 : 池田 介護職員 : 佐藤 介護職員 : 近江		
記録者氏名	布重	記録年月日	平成19年11月29日(木)

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	事業所独自の理念、作成しています。		
2 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念を念頭に置き、仕事に取り組んでいます。		
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	理念を掲示しています。 又、運営推進会議は、二ヶ月に一回開催しております。	0	なかなか設置出来ずにいる家族会を設置します。
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	隣の方など、施設長の所へ遊びに来たり、外で会えば挨拶を交わす仲です。		
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内の敬老会、盆踊り、ゴミ拾いなど、参加させて頂いています。	0	今後、運営推進会議などを通して、もっと地域の行事などに参加していきたいと考えています。
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	何かの形でお役に立ちたいと考えております。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>		<p>しかし、もっと学ぶ機会を設けたいと思います。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	特に管理者は、意見を言ってくれるような雰囲気作りに努めています。日々のコミュニケーションと信頼関係が全てだと考えます。外部の苦情申立機関として、重要事項説明書に下記3ヶ所を明記させて頂いています。 ・社会福祉法人 旭川市社会福祉協議会・旭川市役所 ・北海道国民健康保険団体連合会 総務部介護保険課苦情処理係		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	面会に来られた際には直接お話をさせて頂いていますし、請求書に同封させて頂いている「グループホームユニティ旭神通信」には、その全ての項目が載っています。健康状態については、何か変化があれば直ぐに報告させて頂いています。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	各フロアに「ご意見箱」なるものを設置させて頂いています。又、入居者様と同様に、意見を言ってくれるような雰囲気作りに努めています。	○	今後、早急に家族会を設立します。
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	おかしいと思う事は何でも言って欲しいと思っています。ミーティングは毎月行っていますし、それ以外でも随時話しているつもりです。	○	しかし、言えないで困っている事もあるかもしれません。意見を言いやすい環境や方法を模索したいと思います。
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	入居者さんの受診、レクリエーション、誕生日など、予測出来る限りの予定を考慮し勤務表を作成しています。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	平成19年11月、突然の管理者の異動があり、職員にも入居者さんにも影響がありましたが、今後、突然の人事、又は退職が無いように環境作り心掛けて行きたいと思っています。	○	又、突然の人事があったとしても動揺しないような基盤作りをしたいと考えております。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>会社全体で「研修委員会」を設置しています。更に「学びの会」という物も設置されており札幌や小樽の自社のグループホームの職員同士の行き来があります。又、外部で行なわれている研修には、個々のレベルに合ったものをチョイスして積極的に参加しています。</p>	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>平成19年11月に、旭神地区の他のグループホーム2箇所へ声をかけさせていただき消防による普通救命講習の機会を設けさせていただきました。又、これをきっかけに、とりあえず管理者同士の食事を約束しました。</p>	<p>○</p> <p>今後、合同で出来る行事を模索していこうと考えています。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>悩みを言いやすい環境作りを心掛けている。職員の入れ替えなどは直接入居者さんのケアに影響を及ぼすので、かなり気を使っている部分の一つです。</p>	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>当社ではインターネットの環境を利用した「グループウェア(デスクネット)」を取り入れており全国のグループ内の部署がこれを通じて状況を報告したり閲覧したり出来る様になっております。誰がどのような働きをしたのか、グループウェアを通して把握しやすい環境が出来ている。</p>	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>本人の身体的、又は、とりま環境的な部分を把握せずにケアは始まりませんのでじっくり話を聴きます。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>ご家族のご意見、ご要望をまず聴き、質問には明確な返答をもって、不安を取り除いていくよう心掛けています。</p>	<p>○</p> <p>わからないことがあって質問に答えられなかった場合には、即座に学習し返答します。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	実費で受けられるサービス(訪問看護など)や体に合った福祉用具など。又はリハビリなどの機能訓練のようなものも含め、考えるサービスの情報提供を行なっております。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	生活の環境が変わる事は大変なストレスなので、全ての事は徐々に始動していきます。その際、ご家族との相談は不可欠だと考えております。これは、初期の段階のみならず、継続して行なう順序だと考えております。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	ご本人が自発的に何かを行なっていけるような雰囲気作りが大事だと考えます。お世話させて頂いている反面、多くのことを学ばさせて頂いています。持ちつ持たれつの良い関係にあると感じております。	○	しかしやはり、「厄介かけるね」などの言葉を聴くと、遠慮させてしまっているなど感じてしまいます。ご本人が遠慮ナシに何でも言える関係の構築に努めたいと思っております。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご本人の生活状況や身体的な状況など、変化があれば随時、又、通信で毎月報告させていただいています。その上で、どのような方向性でご本人を支えていくかを考えております。	○	ご家族の中には「親を預かってもらっている」と考え、更に「多少職員の対応に不満はあるが、親の面倒をきちんと見てもらえなくなったら困るからとりあえず黙っておこう」と思っている方も少なくないと考えます。そういった事を思われぬように、何でも話して頂けるよう信頼関係を構築していきたいと思っております。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	ご本人と家族の関係についておよその把握をさせて頂かなければケアは出来ません。関る全ての人たちで情報を共有し、より良い関係を築いていけるよう努めています。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れぬよう、支援に努めている。	昔から利用している美容室、友人、婦人会、故郷など、健康状態、地理的な制限を踏まえ行ける範囲は何処までも行きます。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	相性の問題はあるので、多少偏りはありますが、孤立している方はいないと感じております。	0	しかし、職員がもっと入居者さん同士の間に入り、入居者さん同士の交流を増やすべきと考えます。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	以前入居されて居た方が退去後入院先の病院で亡くなられるまでお見舞いなどに行かせて頂き、ご自宅のご仏前に手を合わせていただきに参りました。その奥様の入居希望を娘さんがして下さっています。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	全てのことは可能な限り、努めています。情報は、申し送りや、連絡ノート。又はミーティング時に共有するようにしています。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	故郷や住んでいた場所、家族構成など、全ての情報がケアのヒントになるのでご本人又はご家族からの情報提供をお願いしています。又、入居の際は、担当していたケアマネージャーさんやワーカーさん、看護師などからの情報を頂いております。	0	センター方式を、もっとフル活用できるように努めていきたいです。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	24時間生活シートの活用や、排泄、飲水、睡眠チェックシートなどを利用し、生活パターンの把握とともに、その時々感情の流れなどを意識し記録するなどを心掛けている。	0	しかし、記録の書き方、記入もれなど目立つ。特に多忙な時間帯など注意しなければならない。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	まず、その入居者さんの担当職員がアセスメントを行い、それを計画作成担当者がまとめ介護支援専門員及び管理者がご家族との意見も交え、介護計画を作成しています。作成したものはまずご家族に説明しながら確認して頂き、サインをもらいます。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	期間に応じた見直しは勿論ですが、状態が変化すれば、即座に計画は見直しています。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子は「ケース記録」という用紙に個別に記入しています。	○	記録はしていますが、もう少しケアプランに添った記録の書き方を実践していきたいです。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	1Fはデイサービスを運営していますが、そこで行なう行事を観覧するなど交わりを図ることがあります。 要望には出来る範囲の事であれば、全て応じたいと考えております。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	運営推進会議には民生委員の方も参加していただいています。動物園に行った時などは社協からボランティアの方を仲介して頂きました。又、近くの交番にはこちらの情報を提供しており、地域の方々のご協力には感謝しております。	○	しかし、お世話になるばかりで、こちらが地域に貢献できていないのでその方面、何かしら検討していきたいと日々考えています。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	運営推進会議には、居宅介護支援事業所のケアマネージャーさんにも参加して頂いております。 介護保険外のサービスについて、情報提供を求めればアドバイス頂けます。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	主に、1Fデイサービスの生活相談員が地域包括支援センターと行き来しています。 必要に応じて、協働できる体制にあると思います。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	それぞれの入居者さんのかかりつけ医との連携は勿論、医療連携の契約を交わしている協力病院があり、24時間の対応をして頂いている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	認知症に関する講習などに参加したり、外部から講師(医師)を招いたりしているが診断や治療を行なって頂くという事にはなっていない。	0	いつでも相談できる専門医が居ると、心強い。
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	医療連携している病院の正看護師が、月に3回の訪問をしてくれて健康管理をするとともに24時間、携帯電話で対応してくれている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時、入院中、細かに連絡をとり情報を交換できる体制を作っている。又、医療連携している病院では、事前にそういう場合に備えて関係を構築済みである。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	グループホームでは、職員による医療行為が出来ないため、外部の実費負担によるサービスの提供の周知など、どこまでする、又はできるのかを話し合い、想定しています。今はまだ力不足ですが、看取る事を目標としています。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	より充実、且つ強力な医療連携を構築するべく、努力している最中です。前項目と重複しますが、出来ること・出来ない事を考慮し、目標に向かって行けるところまで行きたいと考えております。	0	看取りに関する同意書の整備や、それぞれの身体状況に応じた看護の具体案など、思案し、実行しなければいけない事が沢山あります。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>来春、こはく館から自宅へ移り住む予定の入居者さんがいます。自立に向けての支援やご家族との話し合いを密に行なっています。とても難しい事ではありますがご本人が残りの人生を健やかに過ごすために、労力を惜しまずにバックアップしたいと思います。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>誇りを損ねる事はその人の肯定をしていないことになりますし、プライバシーは入居者さん以外の人も損ねてはいけません。記録は、鍵をかけてロッカーに保管しています。</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>「はい」「いいえ」で返答できる質問を心がけますが、全て「はい」と答えたり又は、その逆の方も居るので、考えた声掛けが重要です。</p>	0	全員がそれを実行できるように検討しています。
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>起床時から、食事、入浴に至るまで、基本的には入居者さんが希望する時間に行いたいと考えます。</p>	0	しかし、現実的な問題として、対応しきれない部分があることは事実です。
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>何を着たいかなど、選択できる方には選択して頂いている。希望の美容室に行きたい方はその要望にこたえている。訪問美容も利用している。又、衣類の買い物も個別に対応し、一緒に衣料品店へ買い物に行ったりもする。</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>料理本を一緒に見ながら、あれが食べたいこれが食べたいなどと話し、更に食事作りなど手伝っていただき、時にはアドバイスなど受けながら作って頂いている。いなり寿司のごはん詰めやおはぎのあんこ付け、もやしのひげとりなど日常である。片付けなどは、こちらからお願いしなくても自ら行なってくれることが多い。全ては、楽しくなければ、してもらえないことだと感じています。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	こはく館には、飲酒、喫煙を好む方はいませんが、イベント時にビールなどをたしなむ方がいらっしゃいます。おやつは日常的に提供しますが、血糖値の高い方などには工夫したものを提供しています。		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排尿を、したくても思うようにできない方や、面倒でトイレに行きたがらない方などありますが職員の声掛けにより、促したり、誘導、介助したりしています。必要だと感じた方は、排泄チェック表に記入して、状況を把握しています。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	常に本人の意向を聞いている。夜間にシャワー浴をすることもある。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	極端な不眠があって、本人がそれを苦しんでいるようならば医師に相談しますし眠れる時間があるのであれば、日中であろうと眠っていただいています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	編み物や広告による箱作り、又、付添婦の経験のある方が他の入居者さんのお世話をこなすなど、認知症であっても出来ることは沢山あります。その能力には感動すら覚えます。		
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本的に、ご家族の同意のもとで事務所でおこづかいを管理させていただいていますがその他に、自己管理している方もいらっしゃいます。買い物に行けば、自分で自分の財布の中から支払いを済ませて頂くこともあります。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	積極的に外出したい方がいますが、決して止めません。職員が安全を確保できる距離で一緒に出かけます。 その他の方は、こちらから声掛けし、散歩、ドライブ、買い物などに出かけています。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	動物園や、個人の思い入れのある場所など、団体、個別、家族同行、一切問わず可能な限りの外出をしています。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	事務所の電話を使用する方がいます。 封筒に入れた手紙を出してほしいと言われ、投函した事もあります。 それらに制限をすることはありません。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	毎日来てくれる方もいらっしゃいます。 又、遠方よりおこしの際は、宿泊や食事の提供もさせて頂いています。 館全体が、自分の家のような感覚で来館できる雰囲気があればと、常に意識しております。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指 定基準における禁止の対象となる具体的な 行為」を正しく理解しており、身体拘束をしな いケアに取り組んでいる。	身体拘束をしなればいけないような入居者さんがおりません。	0	しかし、その「具体的な行為」についての学習、及び理解度は 不足していると感じております。 早急に委員会などを立ち上げ、周知していきたいと思いを ます。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄 関に鍵をかけることの弊害を理解しており、 鍵をかけないケアに取り組んでいる。	昼夜問わずに何度も外出したがる方がおられますが、日中施錠はしません。 地域の方も、その方の顔を最近覚えてきました。 見失った時、その入居者さんが歩いていった方向などを、教えてくれたりもします。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	所在を把握していない時間帯はありません。夜間は、最低でも二時間に一回の巡回をしています。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	入居者さんの能力に応じて、危険と判断するものは事務所などで預らせて頂いています。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	全ての事故の可能性は、一人一人の能力に応じ、ご家族と相談しながらどの程度のラインでケアをしていくか、方向性を決めています。多少のリスクはあっても、個々の能力と自由を優先させて頂いています。しかし、窒息、誤薬、火災に関しては、シビアになります。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	消防職員による普通救命講習を、全員受講しました。反復が大事と考えますので、毎年実施したいと考えています。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	火災に対する避難訓練は年に2回実施している。	0	しかし、地域の方たちに協力を得られるような訓練の実施はしていない。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	特に転倒などの危険性については、ご家族の理解の元、本人の自由を優先させて頂いています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>何か変調が見受けられる事があれば、すぐに管理者に報告が来て、指示をするような体制が出来ています。そのために常に情報を共有し、観察を怠る事の無いように指示しています。</p> <p>又、日常の「ケース記録」とは別に、何か特別な変化があれば「特記記録」に記録する事になっています。</p>	
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>情報の共有化は図っているものの、全ての薬の把握には至っておりません。</p>	<p>0</p> <p>薬の内容は、その入居者さんの健康状態を把握するのに、極めて解り易く重要な事だと認識しますので、周知、徹底していききたいと思います。</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>食物繊維や乳製品の摂取などを心掛けています。</p> <p>又、下剤の調整や、座薬の使用などでコントロールしなければうまくいかない方もおられます。</p>	
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>自力で出来ない方には、見守り又は介助してケアを行なっています。</p> <p>義歯については、毎晩ボリデントに浸けて消毒するなどしています。</p>	
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食摂量は全員。水分摂取量については、不足がちな方に限りチェックし、記録しています。嚥下の状態を見ながら、本人、医師、家族と相談し、キザミ食やとろみをつけたもので個別に対応しております。</p>	
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>感染症に対する取り決めがあります。掲示もしていますし、実行しています。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>食材の買い物は毎日行っている。生もの(刺身など)は当日に買いに行くようにしている。</p> <p>まな板や包丁などは、毎食後ハイターなどで消毒しています。</p> <p>食器も夜勤者が浸けおき消毒しています。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>外玄関前のインターロッキングにはロードヒーティングが施してあり、冬でも安全に歩行できます。</p> <p>ユニット内の玄関には植物や飾り物、パイオリン、絵画などを飾り、雰囲気を出しています。</p> <p>スタッフの顔写真や、運営規定などの書類も置いてあります。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>例えば現在は、クリスマスツリーを飾っています。</p> <p>調光はスタッフが常に気を配っています。</p> <p>曆も、日めくりカレンダーが目立つ箇所にあり、認識できるようにしています。</p>	0	<p>しかし、一人の入居者さんがチャンネル権を握っており、テレビの音量の調節が思うようにできない事が多いです。</p>
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>気の合う入居者さん同士、思い思いの場所で会話などされています。</p>	0	<p>広いスペースがあるので、もう少し有効利用出来るのではないかと模索しています。</p>
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>基本的にはご本人の持ち物を持ち込んで頂いています。</p> <p>それ以外については、ご家族と相談の上、置いています。</p> <p>必要があれば電動ベッドや車イスや歩行器などのレンタルも行なっています。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>最低でも1日に2回、換気を行なっている。</p> <p>又、特に冬場は乾燥しがちなので、加湿器を設置して運転している。</p> <p>入居者さんの声(寒い、暑い)の声に耳を傾け、調節しています。</p>	0	<p>ただ、一人一人、気温の感じ方が違うので、配慮が難しい面もあります。</p> <p>特に共用スペースでは、苦慮します。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>浴槽部分やトイレの手すり、一部追加したのものもあります。又、入居者の部屋に、どこにでも設置できる縦型の手すりを、入居者のご家族実費で設置しているお部屋もあります。</p>	
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>力を活かす環境は与えられていると思います。</p>	
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>裏には、入居者の自らの手でおこした庭があります。</p>	<p>0</p> <p>車イスでそこに行くことが不可能な状態なので、将来、どうにかしたいと考えております。</p>

. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない</p>	<p>入居者さんの意向の汲み取りが、うまい職員とそうでない職員とが居る。 入居者さんの感情の移行など、密に情報を交換し合い、ケアにつなげていきたい。</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない</p>	<p>なかなかゆっくりとした時間を取れないのが現状です。 勤務時間が終了してからなど、余裕のある時に行なっています。</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>	<p>各々のペースを大事にしていますが、全ての希望をかなえる事はできていないと感じます。</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>	<p>支援できたときは、生き生きとして頂けています。しかし、支援できなかったりする時間帯があると、すぐに表情はくもりがちです。</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>	<p>行ける範囲内であれば、どこでも行きます。 団体、個別、問わず時間を作ります。</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>	<p>こちらとしては、医療連携の体制をしっかりと構築しているつもりですが、多かれ少なかれ身体的な不安を抱えている入居者さんの、全ての不安を取り除けているとは思っていません。 より一層、安心して暮らしていけるよう努力します。</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>	<p>基本的に、要望があれば全てに応えたいという気持ちで臨んでいます。それにより、安心して暮らせているのではないかと考えていますが何かしら、我慢をさせてしまっているのではないかと考えます。</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない</p>	<p>ある程度の信頼関係はできていると思います。 しかし、職員によって個人差もありますので、そのばらつきをなくしていきたいと感じます。</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p>	<p>入居者さんのご家族以外の来客となると、たまにしか来客はありません。 もっと気楽に遊びに来ていただけるように、窓口を広げていきたいと思っています。</p>

. サービスの成果に関する項目			
項目		取り組みの成果	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない	着実に成果が上がってきています。地域のつながりを考えたとき、運営推進会議があって、本当に良かったと今、感じています。ご協力して下さっている方々には、本当に感謝しております。
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない	萎縮せず、のびのびと働ける環境作りに、こだわってきました。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	私どもから見ると、おおむね満足しているのではないかと思います。やはり、不満、不安はあると思います。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない	ご家族の皆さんは、私たちに悪い顔をしません。ですので真意は図りかねますが、満足されているご家族もいらっしゃると思います。長い年月をふまえ、より強い信頼関係を構築していきたいと思えます。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

全ては人と人との関わり合いなので、対入居者さん、対職員など問わず、相手を尊重して仕事に取り組んでいます。ホームとしては、最終的には「看取り」までできる体制と能力を、法を遵守しつつ備えたいと思っています。その為には、職員一同のレベルアップが望まれますが、迷わずに進んでいきたいと考えております。

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	(株)アクティブ・ケア グループホームユニティー旭神 さんご館	評価実施年月日	平成19年11月1日～20日
評価実施構成員氏名	管理者 : 津田 計画作成担当者 : 中江 介護職員 : 磯田 介護職員 : 鷺尾 介護職員 : 大谷 介護職員 : 瀬川 介護職員 : 関戸 介護職員 : 谷本		
記録者氏名	津田 喜弘	記録年月日	平成19年11月29日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	事業所独自の理念、作成しています。	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	理念を念頭に置き、仕事に取り組んでいます。	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。</p>	<p>理念を掲示しています。</p> <p>又、運営推進会議は、二ヶ月に一回開催しております。</p>	<p>0</p> <p>なかなか設置出来ずにいる家族会を設置します。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	隣近所の方々と挨拶は行っているが、日常的な付き合いにはなっていない。	気軽に立ち寄って頂けるように、日常的の付き合いをより大切にしてい
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	地域行事の夏祭りや老人会、ゴミ拾い等に参加している。	もっと地域で行われている活動に参加出来るように活動していきたい。
6	<p>事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	開設から2年が経過しようとしているが、そこまでの段階に至っていない。	今後は、地域での活動も視野に入れた活動を展開出来るようスタッフの力を養っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>		しかし、もっと学び機会を設けたいと思います。
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	特に管理者は、意見を言ってくれるような雰囲気作りに努めています。日々のコミュニケーションと信頼関係が全てだと考えます。外部の苦情申立機関として、重要事項説明書に下記3ヶ所を明記させて頂いています。 ・社会福祉法人 旭川市社会福祉協議会・旭川市役所 ・北海道国民健康保険団体連合会 総務部介護保険課苦情処理係		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	面会に来られた際には直接お話をさせて頂いていますし、請求書に同封させて頂いている「グループホームユニティー旭神通信」には、その全ての項目が載っています。健康状態については、何か変化があれば直ぐに報告させて頂いています。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時や電話にてその都度対応するようにしている。家族会を設置しておらず、定期的な意見交換をする機会がない。		家族会を設置し定期的な意見交換を行える機会を持てるようにしていきたい。
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月の会議やショートミーティングの場を活用し意見交換を行いケアに反映している。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	日中は、パートを含めた職員を3名以上配置しており、必要に応じて勤務の調整を行っている。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の離職を未然に防止するために、バーンアウトにならないように常に職員同志が悩みを相談出来る環境にある。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>		<p>・救命講習を他のグループホームと共同で開催し交流する機会を設けた。</p> <p>・老健で行われた夏祭りに参加した。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>		<p>必要に応じて一人一人と話し合いの機会を設けている。職員同志で話し合いを行っている事もある。</p>
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>		<p>・同グループ内のグループウェアを開設しており、行事や研修に参加した場合に報告を行っており把握に努めている。又、グループウェアの活用や目標を定め向上心を持ち働けるよう努めている。</p>
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>		<p>問い合わせが合った場合にアセスメントを実施し、満足した生活を送ってもらえるよう課題を明確にしている。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>		<p>問い合わせが合った場合に相談に応じており、パンフレットの活用やグループホーム内の見学を随時行っており家族の希望や思いを聴き明らかにしている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	実費で受けられるサービス(訪問看護など)や体に合った福祉用具など。又は、リハビリなどの機能訓練のようなものも含め、考えうるサービスの情報提供を行なっております。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	生活の環境が変わる事は大変なストレスなので、全ての事は徐々に始動していきま す。 その際、ご家族との相談は不可欠だと考えております。 これは、初期の段階のみならず、継続して行なう順序だと考えております。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	日々の生活の中で料理の方法や、畑の手入れの方法を職員が教わっており、常に尊敬の念を持ち業務に臨んでいる。又、外出先等で季節の移り変わりを通じて喜びや楽しみを共有している。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	面会時や月に一度発行する通信等で本人の状況を報告している。又、行事にも参加して頂いており、関係を築いている。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	職員間で本人と家族の関係について情報を共有しており、本人、家族の思いや希望を尊重したケアを行い、より良い関係が築いて頂けるよう努めている。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	今まで利用してきた美容室等を入居後も利用して頂いている。又、家族と調整を行い、協力の下、自宅やその他の地域の行事にも参加している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	お茶の時間等、共有の話題のある方同志が集まり、談話されたり居室に訪室されている。オセロやトランプ等のゲームを活用や職員が仲介し会話の機会が持てるよう努めている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービスが終了しても、関係を断ち切らず継続的な関わりが出来るようにさせて頂いている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の希望を尊重し、必ず本人に聴いている。困難な場合には、どうすれば可能なのかミーティングをし、実施に向けて協議している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族や事業所に連絡し、今までの生活歴をアセスメントし把握に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	起床時間や朝食の時間等、生活のリズムに合わせたケアを実践しており状況に応じて出来る事を見守りにて行ってもらっており記録し把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ケアプラン作成にあたり、本人、家族と話し合い課題を明らかにし反映している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	期間に応じた見直しは行っているが、入居者に変化が見られた場合に話し合いは行っているが、計画を作成には至っていない。		変化が見られた場合には、随時検討し暫定プランを作成している。
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	本人の状態、ケアを実践した結果を記録しており計画の見直しに生かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人、家族から要望があった場合には、早急に対応出来るように日程を調整し実現出来るよう対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	警察に情報提供をしている。又、運営推進会議で民生委員、地域の代表者に情報を提供しており地域の幼稚園のお遊戯会に参加した。施設長を通じてボランティアの要請を行っている。		入居者が地域の一員として生活していけるように地域資源の協力の下、支援の拡大を行っていきたい。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	運営推進会議には、居宅介護支援事業所のケアマネージャーさんにも参加して頂いております。介護保険外のサービスについて、情報提供を求めればアドバイス頂けます。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	主に、1Fデイサービスの生活相談員が地域包括支援センターと行き来しています。必要に応じて、協働できる体制にあると思います。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	医療連携の病院を確保しており、入居者より訴えがあったり変化が見られた場合には相談を行っている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	認知症専門医を招き勉強会を実施したが、確保するまでには至っていない。		専門医を確保し相談、診断を受ける事が出来るようにしたい。
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	医療連携している病院の正看護師が、月に3回の訪問をしてくれて健康管理をするとともに24時間、携帯電話で対応してくれている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時に相談員や家族と連絡を行っている。又、定期受診時に主治医と情報の交換を行っている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	終末期のあり方について本人、家族と希望や思いを話し合っており、本人に安心して生活して頂けるように主治医に今後の状態について話し合いを行っている。話し合った内容については、記録しており職員間で情報の共有している。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	利用者の中に終末期のケースはまだないが、安心しており生活して頂けるように医療体制の確保をしている。		経験のない職員もいる為、チームとして関わって行けるよう勉強を実施する。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>現在まで、そういう方はいみせんでしたが、今後移り住む方ができた場合は本人や家族に不安が無いように、係わるケア関係者の方々と十分な情報のやり取りを行い、スムーズに住み替えが出来るように努めます。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>入居者一人一人の状態に合わせて肯定的な返答をしており誇りを傷つけないよう対応している。記録等の個人情報は所定の場所にて管理している。</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>本人が何を希望しているのかゆっくりと聞く時間を持ち、本人に短く分かるよう説明し納得した上で自己決定をして頂けるよう対応している。</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>起床時間や就寝時間等、入居者の希望する生活リズムを第一とし対応している。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>衣類については、その日に何を着たいのかを本人にその都度確認している。行きつけの美容室がある方には、その美容室に行って頂いている。外出が困難な方には、訪問理美容サービスを活用している。いつでも希望に対応出来るようにしている。</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>普段の会話の中から、何を食べたいのか希望を聞き献立に取り入れている。その方の能力に合わせ、盛りつけやもやしのひげとり等の準備、食器拭きをお願いしている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	飲酒については、夕食時に適量の飲酒が出来る機会を設けている。飲み物については、その都度、何を飲みたいのか聞いている。煙草については、館内禁煙となっており、煙草を吸わない方が入居されている。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄チェック表の活用により一人一人の排泄パターンを把握し排泄の有無を確認しトイレ誘導を行っている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴場所を1階か3階か希望を聞き入浴して頂いている。入浴の時間についても本人のペースに合わせている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	入眠出来ない時には、話を聞いたりノンカフェインの飲み物を提供している。不眠だった場合には、日中に臥床して頂いている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	ボランティアという形で1階で麻雀を行って頂いている。天気の良い日には、外に散歩に行っている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自己管理出来る方は、家族に承諾を得て管理して頂いており、預かっている方についてもいつでも使用出来るようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気の良い日には、外に散歩に行ったり、買い物の同行、畑仕事を行ってお願いし行って頂いている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	普段の会話の中で、行ってみたい場所を聞き、ドライブに出かけている。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	携帯電話を所有している方は、居室にて会話をされている。所有していない方についても、事務所の電話をいつでも使用して頂けるようにしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	居室以外にもホールを開放しており、自由に会話を楽しんで頂けるようにしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指 定基準における禁止の対象となる具体的な 行為」を正しく理解しており、身体拘束をしな いケアに取り組んでいる。	柵や拘束帯等の物質的な拘束、薬の使用による拘束以外に、言葉による拘束の無いように普段より気を付けている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄 関に鍵をかけることの弊害を理解しており、 鍵をかけないケアに取り組んでいる。	入り口に鐘をつけており出入りが分かるようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	必ず昼夜通じて職員がホールにいるようにしており、日中は、どこにいるかスタッフ間で声掛けを行い把握をしている。夜間帯においては、2時間に一度様態の確認を行っている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	異食やハサミ、果物ナイフ等刃物などの危険物の扱いについては、本人の能力に合わせて家族の同意の下、物品を預らせて頂いている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故防止委員会が設置されており、委員会を中心に事故防止に努めている。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	救命講習を全スタッフが受講した		今後も定期的に講習会を行い全スタッフが緊急時に対応出来るようにしたい。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	避難訓練を年2回実施している。		
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	家族に面会時に状態について報告しており、その際に対応策についても話し合いの場を設けている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>本人からの訴えがあった場合やいつもと違う動きが見られた場合、職員が気付いた場合には、記録している。</p>	
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>受け持ち分の薬については、理解しているも全入居者の処方内容については理解していない。</p>	<p>処方内容を全職員が把握しておらず、確認し理解を深める。</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>週末以外、毎日ラジオ体操を行っている。又、排便困難な方には、本人と相談し冷たい牛乳の飲用、消化のしやすいように刻み食・お粥にて対応している。</p>	
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>毎食後、口腔内のケアを実施している。状態に応じて見守り、介助を行っている。</p>	
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食摂量を毎食チェックしている。水分量については、少ない方については、チェック表をつけており水分不足にならないように注意している。又、いつでも飲みたい飲み物を提供している。</p>	
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>感染症についてのマニュアルがあり、普段よく触れる場所は毎日消毒している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	まな板は、使用目的別に用意している。調理の度に消毒を行っている。用具についても消毒を行っている。食材については、毎日、買い物に行くことにより新鮮な物を提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	季節に応じて玄関に植物やオブジェを設置し、安心して出入りが出来るようにしている。玄関口まで通路は、アスファルトとは別にタイルを使用し分かりやすくしている。		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	廊下に日めくりのカレンダーや入居者作成の作品を展示。ホールには、季節ごとの花を飾っている。		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	共用空間の畳の場所にソファとテーブルを設置している。		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	家族と相談し使い慣れた物を使用して頂いている。		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気の様子がないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	入居者が、居室に戻っている時間に換気を行っている。日中、夜間に湿度と温度の確認を行っており、居室に訪室した際に温度調整を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	廊下やトイレ、浴室内に手すりを設置している。	
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	居室にネームプレート、トイレに分かりやすいプレートを設置し浴室には、のれんを設置する等して分かりやすくしている。	
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	畑があり、野菜や花等の植物の栽培を実施。ベランダにも植木や造花を設置している。	

サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんど掴んでいない</p>	<p>入居者様の希望や願いを掴む様に日々努めているが、上手く読みとれていない場合がある。入居者様の状況をしっかりと把握出来るようにスタッフ間での情報交換をしっかりと行っていきたい。</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない</p>	<p>お茶の時間等、一緒に過ごす時間を設けているが、なかなかゆっくりと過ごす事が出来ていないのが現状です。</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p>	<p>各自の生活のリズムを大切にしており、本人のペースで生活して頂けるように対応していますが、全てを叶えられていないと思います。</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p>	<p>本人が、望んだ通りの支援が出来た時には、生き生きとした笑顔や姿を見る事が出来ています。しかし、叶える事が出来ない場合もあり、極力望む事を叶えられる様にしていきたいです。</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p>	<p>可能な場所であれば個人・団体問わず外出出来るように対応しています。</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p>	<p>健康面や医療面・安全面において、万全の体制を整えていると思いますが、少なからず、心配な事あり入居者様の不安を全て取り除けていないと思います。普段から、心配な事が無いか話を良く聞き、より安心して生活して頂けるように努めていきたいと思っています。</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p>	<p>入居者様の要望があった場合には、全ての事柄に対応していきたいと思いますが、対応出来ない事もあり、入居者様に我慢させてしまっている事があり、安心して生活して頂けるようにより柔軟な姿勢で取り組んでいきたいと思っています。</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族 家族の2/3くらい 家族の1/3くらい ほとんどできていない</p>	<p>信頼関係の出来ている家族とそれ程出来ていない家族があり、バラツキがあると思います。信頼関係を構築出来るよう面会時など話を聞く場面を作っていききたいと思います。</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p>	<p>家族の面会以外となるとご友人や知人などたまに面会があるのみです。もっと気軽に面会して頂けるように対応をしていきたいと思っています。</p>

. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果		
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<p>大いに増えている <u>少しずつ増えている</u> あまり増えていない 全くいない</p>	着実に成果がでていていると思います。運営推進会議を通じて地域の方や関係者との関係が広がったと思います。ご協力して下さった方々には本当に感謝しております。
98	職員は、生き生きと働いている	<p><u>ほぼ全ての職員が</u> 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない</p>	入居者の一番近くにいる現場のスタッフが第一と考え、生き生きと活動出来る環境を目指して環境作りを行っています。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<p>ほぼ全ての利用者が <u>利用者の2/3くらいが</u> 利用者の1/3くらいが ほとんどいない</p>	満足しているのではないかと思います、スタッフに遠慮してしまい不満や不安がある入居者様もいると思います。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<p>ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが <u>家族等の1/3くらいが</u> ほとんどいない</p>	面会の度に感謝の声を頂いておりますが、不満の声もあり、そういった声を真意に受け止めて満足して頂けるケアを提供出来るように信頼関係を築いていきたいと思っています。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)
 まだまだ未熟なチームではありますが、入居者様に毎日を安心して笑顔で暮らして頂けるように取り組んでおります。スタッフも現状に満足せずより良いケアを提供出来るように研修や同グループ内の報告書等を通じて福祉従事者としての能力の向上に励んでいます。